

7月のおすすめ本

『男女平等は進化したか』

男女共同参画基本計画の策定、施策の監視から』

【分類 1301/カ】鹿嶋敬/著 新曜社 2017年

「女性活躍推進はプロセス、ゴールは男女共同参画社会の形成」と著者が書くように、男女共同参画社会（男女が社会の対等な構成員としてあらゆる分野の活動に参画できる社会：男女平等）の形成作りについて、1990年代からのプランやビジョン、これまでの男女共同参画基本計画について、その会議で総理はどう発言してきたか、そして「ワークライフバランス（仕事と生活の調和）」「性的マイノリティ（少数派）」「ダイバーシティ（多様性）の必要性」についても記述があります。男女平等の達成を目指して書かれた本です。

『「わがまま」のつながり方』

【分類 4106/カ】鎌田實/著 中央法規 2017年

厚生労働省は、団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年までに、病院ではなく、生活の場で死を看取ることができる地域づくりを目指しています。しかし、現場では「どのような地域包括ケアをつくったらよいのかわからない」という戸惑いと不安の声が上がっています。そこで、30年以上前から地域医療と介護の連携に力を注いできた著者が、地域力を高める仕掛けや、生きたネットワークづくりのアイデアを実践者の事例と共に紹介します。多様な「わがまま（我のまま）」を認め合う社会への知恵が満載です。

『新聞記者』

【分類 7102/モ】望月衣塑子/著 角川書店 2017年

著者が中学2年生のころ、母から吉田レイ子さんの本を紹介されました。アパルトヘイトという人種隔離政策がある南アフリカ共和国のことを伝えたものでした。父からは紆余曲折の人生と業界紙記者の経験を聞きました。そうしてジャーナリストになりたいと思うようになったのです。新聞社に就職したものの数々の失敗を重ねますが先輩からの叱咤激励で鍛えられます。取材現場の話は大変興味深く引き込まれてしまいます。おすすめです。